

たっちゃんたち



編集・発行／いのちのうた

〒669-2332 兵庫県篠山市北新町48-20

TEL.079-554-3488

<http://www.inochi-uta.net/>

代表：山中 信彦

池田 幸正

中川 順子

村上 尚美

杉村 肇

デザイン：徳平 利加子



この冊子は「ふるさと篠山へ 帰ろう住もう運動」の助成金を受けて作成しています。



重度障がい24年間という人生を生きた娘、瑞穂が天国に旅立ち1年が経過しました。
今でも、娘のことを思い出しては愛しくなる毎日です。
私たちの住む篠山市には、障がいを抱えた人がたくさん暮らしておられます。そしてその生活をサポートしている方もたくさんおられるのです。
健全者には気がつかない細かな生活の中での不便をお手伝いされている人やグループ。
精神的な心のよりどころや自立を支援するための活動から、身体をはって動き出している人。
支え合う心が育まれている篠山市の人々を誇りに思い、そして障がいを強い意志で前向きに乗り越えてこられた方々に、生きることのすばらしさを教えていただきました。

私たち「いのちのうた」は音楽や芸術を通じて、障がいのある人もない人も、病気の人もそうでない人も、共に楽しみ・つながり・支えあいたいと願い、活動している団体です。

今回の小冊子を手にして下さった方が「篠山のまちは温かそうやなあ、篠山への定住を考えてみようかな」と感じていただけたらうれしく思います。

いのちのうた 代表 山中 信彦



平田博之さん

平田明美さん

平田博之さんが障がいを持っていますが、健全者と同じように気軽に宿泊し、気分転換のできる施設を造ろうと決めたのは、明美さんのアドバイスがきっかけだった。
2人は、共に尼崎市の社会福祉事業団に勤めていた。勤務先のデイサービスセンターには、介助なしでは食事や入浴ができない重度の障がい者が通所しており、ほとんどの利用者が自宅とセンターを往復するだけの生活を送っていた。

そんな中で、数日前まで元気だった20代や30代の若い人たちが、ちょっとした病気でも突然亡くなってしまふのを博之さんは何度と経験していくうちに「この人たちに思い出を作れないかな」と考え始めた。

明美さんも同じだった「あなたならできるんじゃない」という言葉に後押しされ、7年後の平成21年9月、博之さんが住みたかった町、篠山市にとっても可愛い、バリアフリーの宿「けあぺん」がオープンした。

宿は家族だけで心おきなく過ごせるよう1日1組限定、そして介助は平田さん夫妻が入浴、食事、排泄の介助、口腔ケアなど障がいに合わせた対応してくれる。費用もいろんな人に利用してもらえよう1泊2食付きで、1万5000円と利益がえしの価格。それよりお2人の思いが報われるのはお客様からの「ありがとう」の言葉だ。



介護サービスつきばりあふりの宿
すろーらいふ・けあぺん

〒669-2533 兵庫県篠山市山田245
TEL・FAX 079(558)1710
e-mail keapen@zeus.eonet.ne.jp

長澤秀世さん



長澤秀子さん

長澤秀世さんと秀子さんご夫妻は、共に聴覚障がいを抱えての理容室経営そして子育てだった。

2人の出会いは理容師の資格を取るために通っていた神戸ろうあ理容協会で、同級生になったことが縁で親しくなり結婚した。

理容師の資格は取ったものの、いざお客さんに向き合うと希望している髪型を知るのが「苦労だった。流行の髪型が載っている理容雑誌数冊を渡して、どのようにカットするのかを身振り手振りで伝えてもらうのだ。

子育ても同様、不安だらけの中で家族や地域の人たちの協力を得ながら育ててきた。今や2人の息子さんは立派に成人してそれぞれ独立している。

仕事と子育て二人三脚で送ってきた秀世さんはもうすぐ60歳を向かえるが、明るい性格と丁寧な散髪の技術は評判が良く、篠山市を始め丹波市、三田市、神戸市からもお客さんがやってくる。

特に同じ障がいを抱えるろうあの人達には、手話で髪型を伝えることができる長澤さん夫妻はありがたい。

「これからもまだまだ元気で生きるために頑張りたい」とガッツポーズで笑う夫妻からは、元気が伝わる。

理容 亀喜



営業／午前8時から午後7時まで

〒669-2823 兵庫県篠山市大山下4845

TEL・FAX 079(596)0843

酒井美智代さん



もみじちゃん

酒井雅和さん

愛猫もみじちゃんはお気に入りの場所です。雅和さんを見守っている。



突然の発病は平成13年のことだった。

中学の社会科の教師を務めていた酒井雅和さんは、ドアにぶつかると。自動車は溝に脱輪する、ぶつける。とこれまでに無い身体の異常を感じて病院へ足を運んだ。

その時、医師から告げられた病名は脳梗塞からくる視野狭窄という非常にまれな目の症状だった。平成13年、14年と二度の脳手術を行ったが視力は回復することなく平成18年「ろうそくの火がふつと消えるような感じで見えなくなった」と当時を振り返る。

失明の苦悩は精神状態を不安定にし、自暴自棄から家族に当たり散らして、手のつけられない状態だった。

1年間を閉じこもりがちに過ごしていたが、視覚障害者総合福祉施設の京都ライトハウスに入寮後は、同じ視覚障がい仲間がで、少しずつ心が安らいできた。

初めてのトレーニングは、一人でトイレに行くことだった。健常者には当たり前の動作が、これほど怖いとは・・・だが辛抱強く手の感覚を頼りに練習を繰り返し、ようやく一人でトイレに行けた時の嬉しさは言葉に表せないほどだった。

「私は教師時代、生徒へ早くしろとか急いぞとか言っていたけれど、ライトハウスの先生方は早くしなさいの言葉だけは言わなかった。辛抱強く待ってくれ、そして自信を取り戻させてくれたことに感謝しています」と語る。

今、酒井さんは自身の経験から得た「見えないことから見えてきたこと」と題して講演を行っている。

〒669-2202 兵庫県篠山市東吹1346

TEL・FAX 079(594)1686



岩下八司さん

岩下啓子さん



井上一休さん

まさか、あんなにおてんばな娘が不登校になるなんて、考えもしなかった。小学3年生から急に学校へ行かなくなってしまった娘さんのことが理解できずに悩んだ時期もあった井上一休さん。

学校だけは絶対に行け、という考えではなかったが、人との繋がりを絶ってしまうことになってはいけな。そう考えて、娘さんや不登校の児童がコミュニケーションのとれるフリースクールを立ち上げた。

当時は豊岡市で小さなスーパーを経営する傍ら、スクールでは娘さんや集まった児童が安心して過ごせる居場所を提供していたが、豊岡市を襲った水害によりスーパーが続けられなくなり、平成9年友人のすすめで篠山市へ移り住んだ。

移住後は、生活のためにいろんな仕事をしたが、不登校児童や引きこもりの人達が繋がることのできる居場所をと考え「しゃべり場」という交流館をもった。井上さんのもとへは、引きこもりで外出のできなかった人やその家族が悩みを共有するために集まってきた。

そして今、井上さんは自らユニボに乗って、もっと多くの人達が関われる場所を作ろうと、引きこもる若者たちの活動の場「遊びの村」を建造中だ。

この村で人と関わり遊んでほしい。外で遊ぶことを楽しんでほしい。この村が若者の夢を実現できる場所であってほしい。勇気を出して来てほしい。と願っている。

NPO法人 結^{ゆい}

〒669-2823 兵庫県篠山市野尻280-1
井上一休 携帯 090(1900)6932

篠山のバン格拉おじさん、おばさんとして今や有名な岩下八司さんと啓子さん。

2人はバン格拉デシユの村に教育支援をするため25年にわたりボランティア活動をしている。緑いっぱいのジャングルに学校を建設するため募金を集めたり、子ども達が学校へ通えるよう日本での里親を募り、1年分の教育費13,000円を支援してもらえようと呼びかけている。今では5校が建設された。

特に毎年バン格拉デシユの子ども達を訪ねるツアーは、現地の実状を知るきっかけとなり、多くの参加者が貧しいけれど明るい子どもとの交流に心が豊かになる思いだという声が寄せられている。

2人の活動を通じてバン格拉デシユという国を知った人は多く、毎年訪れる際に啓子さんが撮り貯めた写真で、報告も兼ねて篠山市や丹波市で写真展を催している。

岩下さん夫妻には、国も人種も貧しい人も健常者も障がい者も無くみんな地球人で、同じ星に仲良く暮らす住人なのだから助け合わなくてはとの思いがある。

その気持ちに通じるのか、黒豆珈琲一杯150円が売りの休憩場には、いろんな国籍の人や障がい者もやってきてサリィを着てみたり、大きな声で笑いあっている。

P.S.U だいじょうぶ屋

営業／午前10時～午後4時30分(月曜定休日)
〒669-2331 兵庫県篠山市二階町11-1
岩下啓子 携帯 090(8382)3131
e-mail p.u.s-japan@gaia.ne.jp
http://yaplog.jp/pus_japan/



辻本 一郎さん

辻本 桃佳さん

辻本 三和さん

(財) 兵庫県視覚障害者福祉協会 丹波支部 評議員
グランドソフトボール部 代表



奥平 綾子さん

おめめどう
スタッフの皆さん

奥平綾子さんは、次男のダダ君が3歳で自閉症と診断されて以来、障害という現実と向き合うようになった。それは奥平さんの「ハルことは」に書かれている短い文章から伝わってくる。

《息子が自閉症と診断されたとき、私は悲しみの中にいました。自分の子どもに障害があることに嫌悪を感じ、自閉症の人の将来もわからず恐怖感がありました。それでも、それまで3歳と9ヶ月ともに暮らしてきた我が子です。子どものプロフィールがありました。丹波の小さな村に住む、5人家族の次男坊。電車と記号が大好き。彼のそれまでを、否定することはできませんでした。》
15年前の不安と戸惑いが伝わる素直な文面に、もしも同じ立場であれば皆そう思うのではないだろうかと胸の詰まる思いになる。

そして我が子を理解するために奥平さんは、同じ子どもを持つ会への参加や、大阪や神戸へ発達障害という専門の勉強に出かけた。ダダ君やたくさんの専門家から学んだ知識は、自閉症など発達障害児の特性に合わせた生活サポートグッズを開発するまでになり、平成16年「おめめどう」が設立された。

全国から注文が殺到する「巻物カレンダー」や「コミユメモ」などは、子どもの自立を願う親心が生んだヒット商品で、今後も新しい商品が子ども達の支援につながる希望を含んでいる会社だ。

株式会社おめめどう

営業／午前10時～午後4時（土・日曜日定休日）
〒669-2223 兵庫県篠山市味間奥190-8
TEL・FAX 079（594）4667

全国中学生人権作文コンテスト中央大会入賞作品「少しずつ・・・」は西紀中学3年生の時に、辻本桃佳さんがお父さんの体験から思う視覚障がい者への理解を求める作文だ。

辻本一郎さんは先天性の弱視で5、6歳の頃から徐々に視野が狭くなってきた。それでも目が見えにくいことを除けば元気で活発な男の子だったので、近所の同い年の子と一緒に西紀小学校、西紀中学校、篠山産業高校へと進学した。

「ただ高校生の時は一番前の席にしてもらったけど」と、こちらの目を見て答えられる辻本さんに「私が見えているのですか？」と問うと「いえ、まったく見えませんよ、僕のように途中から全盲になったケースは、見えていた頃のように相手の顔に視線を向けるんです」

そうだったのか、その時によりやく桃佳さんの作文に書かれていた文章が理解できた。

《個人個人の見え方はそれぞれ違うし、外見や行動で障がいの重度を判断するのは良くないと私は思う。》と言う文面で綴られた障がいの日常の動作の違いだ。

一郎さんは体格が良くても声も大きい、グランドソフトボールを始めたその年には準優勝というスポーツマンタイプ。おまけに笑顔で話す経験談はユニークで笑える。

その明るい性格にこちらの気持ちが軽くなるが、忘れてはいけないのは、笑顔になるまでの努力があったことを。

辻本治療院

営業／午前9時～午後7時（金曜日定休日）
〒669-2733 兵庫県篠山市下板井26-4
TEL 079（593）1200

山うぐいすの皆さん



市村ますみさん



市村利和さん



市村利和さんとますみさんご夫妻は、共に聴覚障がい
を抱えているがとっても活動的な2人だ。
利和さんは「みんなの家」で、兵庫県各地の障がい者
から預かった手作り作品の販売や、篠山市内の障がい者
施設で製造されたパンの販売などが主な仕事。このパン
の販売では店を飛び出し、自転車の荷台にパンを乗せて町
中へ売りに出かけている。

その元気な姿を目撃されている人は多いと思うが、利
和さんに「パンを買って下さい」と手話で頼まれるとつ
いつい多めに買ってしまおうから不思議だ。

ますみさんは「コミュニケーションフェミつけた」で接
客と珈琲を入れるのが仕事。とにかく大きな口を空けて
良く笑うので、こちらもつられて笑ってしまう。明る
い性格のますみさんと接していると聴覚障がいであるこ
とを忘れてしまうが、幼い頃には近所の子どもとコミュニ
ケーションを取るすべもなかったのが家に閉じこもつて
いたという。

2人の幼少期である昭和30年代には、まだまだ差別や
偏見もあっただろうに、なぜだか愚痴は一切ない。

利和さんの夢は、熱帯魚やメダカやいろんな魚を水槽
いっぱい飼って魚の専門店を持つこと。ますみさんの夢
は、世界中の国を旅して廻ること。でも今は、みんなと
一緒に仕事ができるから楽しいと笑う。

みんなの家

営業／午前9時～午後5時30分（日曜定休日）

〒669-2336 兵庫県篠山市魚屋町31

コミュニケーションフェミつけた

営業／午前9時～午後5時（土・日曜定休日）

〒669-2205 兵庫県篠山市乾新町82-3

篠山朗読ボランティア「山うぐいす」は、視覚障がい
者に篠山市広報「丹波ささやま」や「社協ささやま」「議
会だより」そして「各新聞の地方欄」オリジナルテープの
「話の小笛」などを録音したカセットテープを、郵便物
にして無料で届けるという活動を行っているグループだ。
メンバーは25人。

他にも旧丹南の「松ぼっくり」旧西紀の「ひまわり」
という朗読ボランティアがあり4町合併以来、市の発行
物に関しては3グループが順番に録音を担当している。
「目で読む」ものとして作られた印刷物を音訳するには
工夫が必要で、市広報「丹波ささやま」を収録するの
は数日を要するという。それぞれが受け持ちの箇所を練
習してきてから図書館の施設で収録するが、いざマイク
の前に座ると読み間違ふこともあり、読み手が変わる度
に微妙な音量調節など案外時間がかかる。

正確で聞きやすいテープ作りを目指して、月1回は講師
を招いて標準語のアクセントやイントネーションを含めた
朗読の勉強も欠かせない。感情移入して声の抑揚をつけて
は、聞き手に不快感を与えてしまうことになるので、そこ
はNHKのアナウンサーのごとく流暢にが目標だ。時代の
流れとしてデジタル化への取り組みも求められている。
時には戻されてきたテープにおれの手紙が添えられて
いることがある。

「少しはお役に立てたかな」と感じるうれしい一瞬だ。

山うぐいす

〒669-2205 兵庫県篠山市網掛301

篠山市社会福祉協議会内

TEL 079 (590) 1112



上田謙治郎さん

上田凛さん

上田ベルタさん



福住・村雲・城東の小学生が
アロマの先生から指導を受け、
地域の高齢者とアロマで交流。



向井千尋さん

福祉の仕事に携わりたいと思ったのは、中学時代の先生の影響だった。篠山鳳鳴高校を卒業すると日本福祉大学へ進学し社会福祉を学んだ。

ただ、大学卒業後は福祉一直線という訳でなく、なぜかアジアや日本を放浪という向井さんの経歴。

特に岐阜県高山市にある「こどものほんやピースランド」での2年半が向井さんの人生に大きく影響を与えている。現在、金沢21世紀美術館学芸課長でガイアドラム演奏者である不動美里さんとの出会いが、ガイアドラムとの出会いにもなった。

太鼓は自分のリズムで叩けばよい。そして表現方法も自分で作り出す。目が見えなくても、知的障がいがあっても誰もが主人公だから楽しく叩けばよい。そんなことを身体と頭で教えてくれた人だ。

平成8年篠山に帰郷後、篠山市社会福祉協議会で5年間は作業所やヘルパーさんとして福祉の現場を経験し、平成14年にフリースペース風和を設立した。翌年には介護保険事業の認定を受け、高齢者や障がい者、認知症の方なども受け入れることができるようになった。

風和に通う高齢者は、自分が介護を受けに来ているとは思っていないくて、老人クラブの集まりに来ているかのよう。それは空き家を改修しての事業所だから、畳の部屋に置かれた座布団に座り、のんびりお茶を頂き自宅のような気楽さの中で過ごしているからだと思う。

NPO法人 風和

〒669-2414 兵庫県篠山市宮ノ前264

TEL・FAX 079(556)2258

e-mail npo.fu-wa@zeus.eonet.ne.jp

上田謙治郎さんは33歳の時に韓国からスタートして、アジア、ヨーロッパ、アメリカと世界35ヶ国を旅して廻った。そして南米ペルーで運命の伴侶ベルタさんと出会ったのだ。

ペルーの首都リマの教会で結婚式を挙げた2人は、しきたりに習って招待客1000人に、地元のシェフを雇って料理で持てなす夜通しのパーティを開いた。その後はリマに1年半住んだが、日本に帰国後は神戸市西区、三木市に移り住んだ。

ところが三木市では家を買って2ヶ月後に、阪神淡路大震災に遭うという運の悪さ。家の倒壊は免れたが、都会生活の不便さに田舎暮らしを決意し、平成17年篠山市に移り住んだ。

もともと土地への執着は無いものの、篠山市ならば黒豆を使った仕事ができないものかと考えて縁もゆかりもない篠山市に越して来たのだった。

そして平成21年には、二階町でペルー産珈琲豆を自家焙煎した本格珈琲の喫茶「ペルー館」をオープンした。この珈琲には南米アンデスのミートパイ「エン・パナダ」が良く合うのだ。そしてベルタさんと篠山養護学校高等部2年生の凛ちゃんの写真がお店の看板だ。

これからの夢は、ペルーのポンチョや民芸品を扱って篠山の人にペルーを知ってもらいたいことだと上田さん。

ペルー館

営業／午前10時～午後6時（水曜定休日）

〒669-2300 兵庫県篠山市二階町64

TEL 079(506)4088



向井祥隆さん



小林矩子さん
のりこ



小林矩子さんは「今、ようやく楽しみながら演奏できるようになったの」と笑顔で語る。

中学の音楽教師を長年務めあげ、定年後は少し時間に余裕が出てきた小林さんのもとには、歌やピアノ演奏の依頼が舞い込み出した。

声を掛けられれば快く赴き、ほとんど無償で演奏してくうちに評判は評判を生み、歌やピアノ演奏の依頼はどんどん増えてきたが、できる限り断らずに受けている。

毎月第4水曜日に『コミュニティカフェみつけた』で行われている歌声喫茶には、ピアノの小林矩子さんとアコーディオンの前川龍雄さんや古林宏之さんのハーモニーが人気で参加者は毎年増えている。

歌声喫茶でソングリーダを務めることもあり「みんなと一緒に大きな声を出して歌うだけで元気になる」と小林さんも参加者もこの日を心待ちにするほどだ。

依頼があれば老人ホームや社会福祉関係の行事などに参加し音楽活動をしている。認知症や高齢者の皆さんと青春時代の懐かしい歌を楽しく歌うことによって、若い頃の記憶が呼び戻され元気になる姿を見ることができると喜びであるという。

小林さんは「音楽ボランティアは自分が元気でいられるためでもあるのだから、これからも歌やピアノを通してみんなと楽しく時間を過ごしたい」と活き活き話された。

《歌声喫茶の実施場所》

- コミュニティカフェみつけた（篠山市乾新町823）
毎週第4水曜日 午後2時～4時
- ギャラリー喫茶 森の時計（篠山市本郷475）
春・夏・秋のシーズンに各1回
- 三田ホテル（三田市けやき台1丁目112）
2ヶ月に1回

向井祥隆さんを語るには、龍谷大学在学中に「京都学生ボランティア協会」のメンバーとして活動を始めた頃までさかのぼる。以後の経歴には、日本初の障害者支援施設「こひつじの苑」建設、多紀郡ボランティア連絡協議会設立、たんば田園交響ホール舞台部等々とまだまだ書ききれないほど多彩な運動や事業に携わっている人物。

特に福祉や人権という分野での知識と見解は、向井さん自らの経験と活動から得た人生観で、篠山市内はもちろん日本中で講演を望まれるほど人々の共感を呼ぶ内容だ。

「ボランティア活動は雪だるま的運動」と向井さんが名付けている言葉があり、その意味を問うと「すべての活動は運動でないとけない」と説明。

何か一つの事を始めようとした場合、それが募金でも地域のゴミ拾いでも一人でやっていたのでは、辛いしなかなか結果として現れない。でも多くの人と一緒にやると辛さも共有できて次は前に進める。

特にボランティアは、一人よりもより多くの人達に関わってもらった方がよい。小さな思いでもこれという方向が決まれば、次は新雪の上に置いて転がしていくとどんどん大きな運動につながるから……

「僕はボランティアをしていて幸せなんだ」それは一番最初に「京都学生ボランティア協会」で気づかせてもらったと言う。

まだまだ、さらに「向井雪だるま」は篠山市日置の中立舎から転がっているよ。